

【ねがいましては】

平成11年3月25日
第113号

KYOWA SCHOOL

「まだまだ」

先日、某TV局で重度の障害を負ったご夫婦が、二人のお子さんを悪戦苦闘しながら育てているというドキュメンタリーを放映していました。お二人の障害の程度は、脳の働きは普通の方と同じなのですが、筋肉を自由に動かせないという、かなり重い障害です。そのお二人が、「ご両親の反対にあいながらも、めでたく結婚、そして奥さんの「母としていきたかった、平凡な家庭が築きたかった」の一言で、出産。ヘルパーさんに助けられながらも、お二人はやがて二人のお子さんとの生活に入ります。

そのとき、インタビューの方が、奥さんに「5年間良くがんばられましたね。」と声をかけます。お母さんは、ただただ、泣くばかりです。そばにいる娘さん（健康そのものの5歳のおんなの子）が、「おかあさん、なんでなくの、おかあさん」と問いかれます。母は、泣くだけ…

母としての思いに、きっと感激なさっているのだと私は思いました。これをお読みになっているおかあさんも、この「喜び」が並々ならぬ「苦労」の裏返しにあるものと、思われていらっしゃる方は多いと思います。「苦労」あっての「感激」、苦労に不真面目さは当てはまりません。

まじめだからこそ、「苦労」するんですね。きっと、この「ねがいましては」を、およみになっているおかあさんは、苦労されていると思います。だってまじめに読んでいただいているのですから…。

最近、五木寛之さんの「他力」という本を読んでいるのですが、その中で、「正直者はばかをみる、という言葉を聞いて、十代のころ思わずびっくりしたものです」とありました。私は、この言葉のあと、ごくごく普通に「正直者はばかをみない」的な言葉を連想しました。が、意に反して「これまで正直者がバカを見なかつた時代なんて一度でもあったんだろうか、今ごろ何を言っているのか、と素直に驚いた」とあるのです。

私は、まだまだ苦労が足りないんだなと思いました。と同じに「反骨心」とでも言いましょうか、「子」を目の前にする仕事をしている以上、理想は、正直者は「徳」があると、旗を掲げながら歩いて行くぞと自負していることです。そんなことを言いつづける大人がいてもいいと思うからです。子供たちの安心できる場所として…。

子供たちの心の中は、いつも正義の味方が宿っていると思うのです。その一番の影響力を持った人が、「おかあさん」です。

先ほどの、TVのお二人の子育ては、私にまた新たな勇気を与えてくれました。ありがとうございます。

4月の予定

4月 6日（火）新学期スタート お楽しみ抽選会 ドル・セントお楽しみグッズ交換会
7日（水）前日同様 抽選会・交換会

*新学期 生徒 受付中です

イメージ暗算の世界を、そろばんを知らないお母さんたちにまず知っていただくキャンペーン実施中です。私どもの教室に来て、実際に様々なアイテムに触ってみてください学習科で、実際に使用されている教材に、触れてみてください。おはがきでお知らせいたします。